

十字会報 モニカ



発行所
福岡地区カトリック女性の会 広報部
〒810-0052
福岡市中央区大濠1丁目7番14号
大濠カトリック会館

私は道であり、真理であり、命である

ヨハネ 14. 6

聖モニカ祭

八月二十六日(土) 大名町教会にて、宮原司教様司式で聖モニカ祭が行われました。

激しい雨の中にもかかわらず一九〇名もの人々が参列し、神様に召された方々に思いを馳せ、祈り、感謝の時間を共に過ごしました。

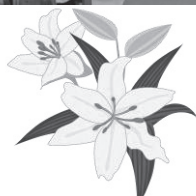
安らかなオルガンの音色と共に、亡くなられた方々の氏名・霊名を一人一人丁寧に読み上げられた後、名簿と写真が飾つてある祭壇の前で、参列者全員が焼香をしました。

フィナーレは、幼い頃より親しんでいた聖歌「いつくしみ深き」でした。帰天された方々も、地上にいる私達も、イエス様の大きな愛に包まれているのだと感じ、胸が一杯になりました。

この追悼式は、故人が信者でも、信者でなくても、どなたでも参加できます。大切



聖モニカ祭
愛に包まれて…



な方々を懐かしみ、偲び、その方々の為に祈りする心温まる時間を、ぜひ、来年の聖モニカ祭でも分かち合えるよう願っております。

広報担当 久保木 絵利
(浄水通教会)



2017・12・9(土) 講演 司教 小生 和生 幸田

テーマ「『いのちへのまなざし』改訂作業を
とおして見えてきたもの」

「いのちへのまなざし」

講演会に参加して

笹丘教会 古曳 利恵

講演を聞いた直後は、いのちのどよめきが聞こえてくるような、そのテーマの大きさと重さを痛感していました。戦争やテロのニュースは後を絶ちませんし、津久井やまゆり園事件の壮絶さも記憶から、消え去ることはありません。普通と想っている社会生活にも、いのちを脅かす要素があふれており、自分自身が生きることに向きになれない時もあるかもしれません。

そのような中、「赤ちゃんポスト」のように、「いのちを守る」活動が着実に成果をあげ、支持されるようになってきました。設置当初、置き去りにされる赤ちゃんの方に気を取られ、この活動の真意を理解していなかったことを恥ずかしく思います。

講演から一か月が過ぎ、私自身も神のまなざしの中の、いのちのひとつとして守られてきたことをかみしめています。これからも社会は変化し、やがて次の増補新版が必要になる時機がくるでしょうが、このまなざしを見失うことのないようにしたいと思います。

今後の予定

4月21日(土) 10時

第35回総会・講演・ミサ

講演テーマ「恵みを生きる」

平野哲也神父(城山教会主任司教)

聖アウグスチノ修道会

5月21日(月) 22日(火)

日力連第44回新潟大会

6月12日(火) 集合8時15分

カトリック唐津教会巡礼

8月27日(月) 聖モニカ祭

四旬節とオリンピック

イエズス会サトルニノ・オチョア

(福岡地区カトリック女性の会担当司祭)

今年もご復活の喜びに備えて四旬節が始まりました。しかし、今回は隣の韓国で冬季オリンピック大会が同時進行していたので、四旬節を別の目で見るよう招き導かれました。

四旬節の間は、心と身体の節制によって回心が求められます。オリンピック精神においても、体と心を鍛えて栄光の冠を探すことが求められます。かといって、その雰囲気はかなり違うと思います。典礼で使われていることば、断食、節制、悪い習慣”の響きはやや暗く、人間の体は恵みより罰として与えられたような考え方です。一方、オリンピックで使われることばは、"ダイエット、練習、コンディション、フィットネス”です。このことばの響きは大変前向きで人間の努力を招くのです。

私たちが頂いた体は神のものです。パウロの言葉で言えば、人間の体は神の神殿であり宝でもあるのです。体が偽りのない心の表現になるように、この四旬節の間、前向きに努力しましょう。

よく生きるとは

体と心と頭が、調和のうちに

一つの目標に向かって

進んでいくことなのです。

(片柳弘史

『このころの深呼吸』より)



女性の会委員になって

糸島教会 門 田 雅 子

昨年四月から委員を引き受けて一年になるうとしています。相良委員と二人で書記を担当し、二人三脚で議事録の作成と発送、配布を行ってきました。また、月に一度、ボランティア・モニカ活動で糸島市にある富の里(特別養護老人ホーム)に行き、一時間ほど、お掃除や洗濯物たたみなどを行っていただきます。写真は全員ではありませんが、富の里で奉仕活動をする皆さんです。

平日は毎日仕事をしていますでしたが、女性の会の委員を引き受けたことから火曜日はお休みし、週4日勤務に変更しました。このボランティアの結果よかったです。思っています。



ボランティア・モニカの皆さん(富の里)

先日ので新年会で、私
が委員の中で最年少だ
ということが分かり、とても驚きました。皆さん
がとても若々しいからです。また、最年長の委員
は七十代。いろいろな事情を抱えながら皆さんよ
くがんばられているな、というのが率直な感想で
す。私はがんばらない。無理をすると長続きしな
いからです。皆さんにもそうしていただきたいで
す。お互いにカバーし合いながら。

毎月の定例会で好きな時間があります。それは、会の始めと終わりにみんなでお祈りをする時です。オチョア神父様もいらっしやいます。女

性たちの声が響くお祈りはまるで修道院のようです。シスターたちは、こんな雰囲気でもいつも過ごされているのだろうか。

小学生のころ、夏のキャンプで将来なりたいものに仮装しようというのがあり、私は小柄なシスターの服を借りて仮装したことがありました。シスターになることはなかったけれど、私は神様に呼ばれて今ここにいます。私に出来ることを精一杯、無理せずに行きたいと思っています。



今年度福岡地区カトリック女性の会は「絆」〜今、私にできることをテーマとして活動に取り組んでできました。七月に起きた九州

北部豪雨の時も、本郷教会に開設されたボランティアセンターに想いを寄せました。

災害ボランティアに直接参加できない思いに代えて、全国から、祈りと献金が寄せられました。この寒い寒い冬、皆様から寄せられたこの思いが「炬燵、ストーブ、ファンヒーター」となって、仮設住宅の方々の身も心も温めてくれたことでしょうか。

『無理はしなくていいからね。』でも、少し勇気を出して。』と、それぞれの「今、私にできること」に神様はいつもそっと背中を押してくださいっています。

会長 川 原 圭 子

(笹丘教会)